



議 会

によどがわ

だより

2009.8
第16号



花しょうぶまつり(長者)で
伝統の花鳥踊りが復活
仁淀高校生と高知大生15人が披露



6月15日 快晴。地場産品コーナーも盛況。
普段は静かな山あい笑顔が戻った(長者)

六月定例会

定例会を持回りで…4P

当選したら何をする…6P

ゴミ収集 不公平が生じている…10P

藤崎町長最後の定例会…14P

仁淀中ソフトボール部、堂々県体2位…19P

高知県仁淀川町議会

TEL 0889 (35) 0111 / FAX (35) 0571 / 発行人: 議長 若藤敏久 / 編集: 議会だより特別委員会 / 印刷: 資佐川印刷所

一 般 質 問

藤崎町長最後の定例会です

6月定例会は、9日・10日に開催。報告1件、補正予算3件、人権擁護委員の推薦の人事案件1件、工事請負契約の締結1件を原案どおり可決。

一般質問は9人が町政の当面する課題に活発な議論を展開した。



公約は守れたか

答 和と財政の健全化は果せた

問

片岡政徳

「二つの布団に3人が寝ると真中は温かく、両端は一方が引くと一方が寒い。」は故片岡音吉吉川村長の言葉である。三町村が合併したまちづくりの集大成を聞く。

答

町長

4年間の和の政治で旧三町村の地域格差は薄れ、商工会、社会福祉協議会、老人クラブなどの組織の統合で地域が協力し合い仁淀川町に定着してきたと考える。

吾川、仁淀は50年、池川は90年の歴史があり、各自自治体の行政経緯がある。

池川は地権者が広い土地を所有し、借地が多い。



保育所の受託など、事業が拡大した社協（大崎）

契約内容なども違い旧三町村の調整は難しく、検討してきたが、解決には時間がかかる。

町民の和と財政の健全化は公約を果たせたと思う。



町長選に立候補。政策を述べる大石弘秋氏 (7月28日・川口の選挙事務所)

問

片岡

副町長の理念は「和」

で、意味は仲良く、協力、調和などで、まちづくりには最適の言葉と構想は。

答

副町長

「和」は家庭、職場、地域にも通じるもので、旧町村の垣根を越え、職場も和の精神を持った一体感のあるまちづくりを目指す。

国の景気対策、県の産業振興計画の中山間対策など有効に活用し、3年余りの町政、38年県政に携わった経験を生かし、官民一体の協働の基本姿勢で臨みたい。急峻で地理的不利であるが、豊かな自然、多くの伝統文化、優れた知識、技能者も多く、この資源を活用し地域経済の振興につなげ、自然と共生したまちづくりを目指す。

大石副町長

目指すものは

答

自然と共生したまちづく

小・中学校

小・中学校の運営に変化は

答

情報を共有しながら

問

片岡

別府小は2・3年が複式、名野川小は完全複式となり、今後も児童の減少で小・中学校の運営の変化が考えられ、保護者の中には不安に思う者も多くいるのでは。

町の方針を保護者、地域への周知は。

答

教育長

大崎小は23年度から複式が見込まれる。

県は一学級当たり20人前後が効率的な教育と示している。各学校の生徒数の見込みは厳しく、PTAの会などの機会に話をしている。

今後、保護者や地域、議会と議論が必要だ。

問

片岡

不安があれば町を出る人も増えると思う。

町に素晴らしい教育を定着させ不安なく教育が受けられる対応を。

答

教育長

保護者、PTA関係者が集まり教育に関しての話し合いを持ちたいと非公式に聞いている。関係者と情報を共有しながら取り組む。



5月に来町。読書の指導と普及を行う、井上蘭読書活動支援員(大崎小)



池川旧議場（7月22日撮影）



仁淀旧議場（7月22日撮影）

定例会を持回りで

答 議会で検討を



問

野村安夫

定例会を、旧町村の持ち回りで実施しては。

答

町長

合併後、議会はすべて本庁で開かれ、傍聴者は182人で町外57人、池川地

答

町長

区8人、吾川地区88人、仁淀地区29人。議場として使用できる条件は、録音機器の充実、十分なスペース、池川・仁淀地区は、改装費が必要だ。

問

野村

定例会最後の置土産にぜひ実現を。

議会で検討すべきである。

産業振興計画は

答

茶のブランド化、高糖度トマト産地の確立、間伐の推進、林材産業の振興、シキミ、サカキの販売拡大、フードプラン等……

問

野村

県は、産業振興計画実行の年と位置付けているが、町は何を全国にアピールし、世界にはばたか。

答

町長

仁淀川流域のアクションプランには、仁淀川流域茶のブランド化、高糖度トマト産地の確立、間伐の推進、林材産業の振興、シキミ、サカキの販売拡大、フードプランを中心に地域産業の活性化など、県全体の事業費に85億円計上、中でも生産から販売までの補助金に10億円措置。これらを活用し産業活性化支援交付金により、新たな取り組みを支援し活性化を図る。

問

野村

来年はNHK大河ドラマ龍馬伝で、高知県は全国に注目される。町も一体化して、注目される産業振興に取り組んでは。

答

企画課長

仁淀川流域で、ピーアール事業その他町独自の商品開発などを研究、商品化して各方面に販売する。



仁淀川茶のブランド化はできるか。いつ？誰がする？